

標準的なバス情報フォーマット/GTFS 勉強会

ショートスピーチ

～ バスデータの標準化・オープンデータ化、

Google Mapsへの掲載～



平成31年4月20日(土)

公共交通マーケティング研究会

アドバイザー 野村 文吾

十勝バス株式会社 代表取締役社長

皆さん、ご存じだとは思いますが

路線バス沿線住民宅に戸別訪問

どうして、
バスに乗って
頂けないの
ですか？

市内循環バス 利用増へ沿線住民訪問



十勝バス(帯広市、野村文吾社長)は17日午後、市内循環バスの利用者を増やそうと、同社役員が路線沿線の居住者に直接訪問を始めた。循環バスは2009年9月に運行を開始したが、1便当たりの利用者は1〜2人程度と低迷しており、地域住民の声を直接聞くことで利便性を上げるヒントを探っている。

「肌でニーズ知ること大事」

循環バスは帯広市地域公共交通活性化協議会が行う運行実証試験として始まった。「国立病院帯広病院」と「イトーヨーカドー帯広店」を結ぶ南北路線、西帯広地区の東西を8の字に回る西地区縦路線の2系統、南北路線は拓殖バスと十勝バス、西地区縦路線は十勝バスが運行する。

1便当たりの平均利用人数は特に西地区縦路線は1・2人と少なく、十勝バスでは初の試みとして役員約30人が28日まで1人10戸を目安に同路線沿線の住人に「営業」することにした。

野村社長は17日午後から柏林台公園付近の住宅を10戸回った。バスの行き先や、既存路線バスに乗り継ぐ時に100円安くなる割引制度についてチラシを持って住民に直接説明。「乗車時間や行き先が知らなかった」などの反応があった。野村社長は「肌でニーズを知ることが大事。買い物など目的別に移動手段として路線バスを提案して利用者を増やしたい」と話していた。(関坂典生)

バス路線の説明に歩く野村社長(左)

2011年、今から8年前に
『戸別訪問』で
ご利用頂けるお客さまを増やす
ことで成果を出した

十勝バスの野村文吾でございます

ちなみに・・・

たけしの『アンビリバボー』



でも、ご存じだと思います(笑)

昨年未、大変僭越ではありますが、
加藤博和 先生 にご指名を頂きまして
公共交通マーケティング研究会
アドバイザー

のお役割を拝命いたしました

今日は、

十勝バスが取り組んだ、

「バスデータの標準化・オープンデータ化、

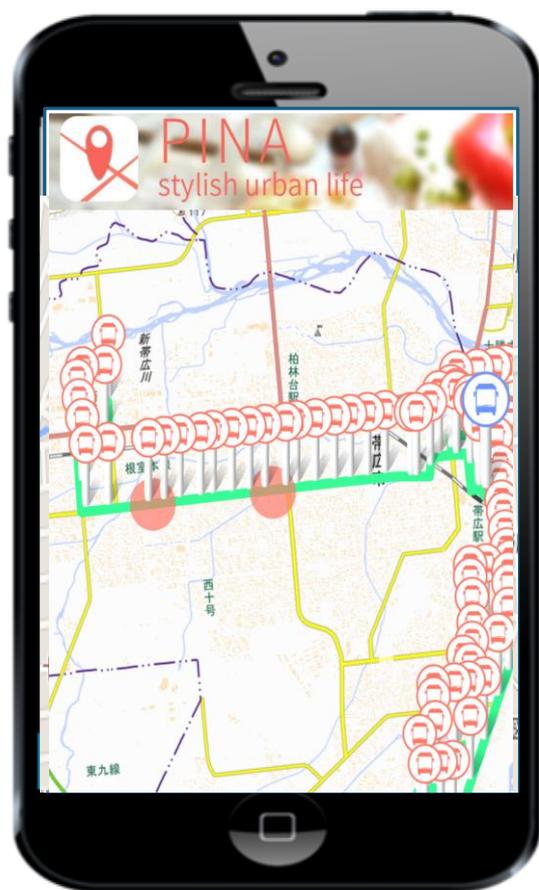
Google Mapsへの掲載」

について話しをさせていただきます

1. 人口減少時代においては
「お客さまを減らさない」ではなく
「お客さまを増やす」が絶対条件

1. 路線維持のための増客

(1) 『バスロケーション』システムは お客さまを減らさない仕組み



- バスロケーションシステムは
- 既存のお客さまの利便性を高めるシステム
- バスを使われていないお客さまにとっては、その必要性を感じられない
- 人口減少の時代ではお客さまの利用を維持してもそのままでは減少してしまう

1. 路線維持のための増客

(2)「目的」や「目的地」の提案により

「路線の見える化」が実現！

企画商品化による アナログ的「見える化」

1. 目的地検索型アプリの意義

(2) 商品化：日帰り路線バスパック

路線上の施設+路線バス
お互いの強みを
組合せた企画商品

観光交通と生活交通の
一体化により

生活交通を支える

利用者数の推移
2010年度:2,100名
2012年度:3,200名
2014年度:4,600名
2015年度:5,000名
2016年度:5,400名
2017年度:6,500名



この事より
明らか

つまり、目的や目的地から
検索が可能ならば

- 利用者が増加する
 - 地元市民
 - 観光のお客さま
 - ビジネスの出張者

結果、路線の維持が可能

1. 路線維持のための増客

(3) 目的地検索型『経路検索乗換案内』アプリは お客さまを増やす仕組み



したがって、

●IT的「見える化」の目的地検索型
経路検索乗換案内アプリは

・バスを使っていない方にとって
目的地まで行けるどうか等の
バス利用の不安を取り除く

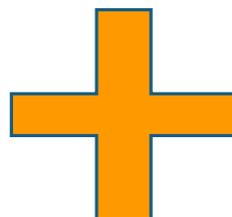
・新たなお客さまの
バス利用の動機を高め
バスのお客さまを増やすアプリ

1. 路線維持のための増客

(4) バス利用のお客さまを

「増やす」してから「減らさない」

目的地検索型 経路検索
乗換案内アプリ



バスロケーション
アプリ



●路線の維持のためにお客さまを増やすには、
目的地検索型 経路検索乗換案内アプリの導入は必要不可欠！

1. 人口減少時代においては 「お客さまを増やす」が絶対条件

- ① バスロケーションはお客さまを減らさない仕組み
- ② 人口減少では利用者維持(減らさない)では減ってしまう
- ③ 目的地検索型アプリで不安を解消しお客さまを増やす
- ④ 市民・観光客・出張者に路線バスを使って頂く
- ⑤ インバウンドのお客さまに路線バスを使って頂く
- ⑥ お客さまを増やして路線を維持する

2. データ共有と他アプリとの連携

2. データ共有と他アプリとの連携

(1) 乗換案内サービス『もくいく&バスロケ』で 北海道全域が繋がり、オープンデータ化

標準フォーマット
オープンデータ化

北海道全域が繋がる！
北海道の路線が見える化！

Google

お客さまにとって、
選択肢が多い方が、
使い勝手が良い
アプリを選べる！



ジョルダン
乗換案内



Yahoo!
乗換案内



NAVITIME



駅探



駅すばあと



バスナビ



もくいく

2. データ共有と他アプリとの連携

(2) アプリの「アルゴリズム」の違いによる課題

① Google:

正確な乗り継ぎポイントを示さない場合がある

② スタANDARDアプリ:

地域の詳細な情報が反映され難い

③ 地方密着型アプリ:

地域の情報を都度アップデート可能

3. 十勝MaaS・北海道MaaS の実現に向けて

5. 十勝MaaS・北海道MaaSの実現に向けて

(1) 二次交通充足地域の創造

十勝圏二次交通活性化推進協議会の野村会長（右）と北村副会長（左）



会長に野村氏「流入人口増を」

十勝のバス会社とタクシー会社に「十勝圏二次交通活性化推進協議会」が発足した。帯広市内の十勝バス本社で設立総会が開かれ、会長に十勝地区バス協会の野村文吾会長（十勝バス社長）を選任。バス、タクシーと十勝の観光素材を組み合わせた商品を開発し、6月から販売して行くことで一致した。

会員は管内バス会社7社、タクシー会社9社。航空や鉄道など十勝への1次交通の利便性が高まっているのに合わせ、中心地から目的地への2次交通の利便性向上を図る。設立総会には行政、経済、観光団体は

バスとタクシーが協議会 6月にも連携商品

十勝圏二次交通活性化推進協議会 設立総会
2013年3月28日開催

十勝毎日新聞 2013年7月30日掲載

十勝のバス会社とタクシー会社でつくる「十勝圏二次交通活性化推進協議会」は30日午前、飛行機や鉄道などを使った十勝への訪問者が、目的地までの移動手段にバスとタクシーで乗り継げる67コースを発表した。帯広の中心地や宿泊地などと観光地を結び付ける公共交通が充実し、広大な十勝に点在する拠点間の移動がしやすくなる。バス会社とタクシー会社が連携した旅行プランを設けるのは全国でも珍しいという。31日から販売を始める。

コースの中には観光施設入場料などが含まれているコースもある。いずれのプランもコースを利用しない場合よりも30～49%安い。バスとタクシーで乗り継ぐ観光プランは、芽室町の「清い山スカイパーク」、清水町内の「十勝千の森」、帯広市内の「真鍋庭園」など。竹ガイテンの3コース。十勝千の森の場合のみ、JR帯広駅バスターミナルを出発してJR芽室駅前まではバス、十勝バスで移動。芽室から十勝千の森まではタクシー。帯広市内の「真鍋庭園」から往復する場合の交通費は8400円となる。帯広市街地から千の森までタクシーで往復できることになり、移動手段がバスのみのツアーバスは、十勝バスが路線バスを使ったこれまでの日帰り路線バスパックなどの他、拓殖バスや毎日交通による新コースの芽室ガイテン、然別湖畔など計31コースある。タクシーのみは33コースあり、昭和タクシー、清水町は富良野市内の「紅ひ、途中で富良野市内の一箇所の森を經由するプランも打ち出した。インターネットでも31日から情報発信する他、パンフレットを制作し、8月上旬

2013年(平成25年) 7月30日 火曜日

最高気温 22℃
最低気温 19℃

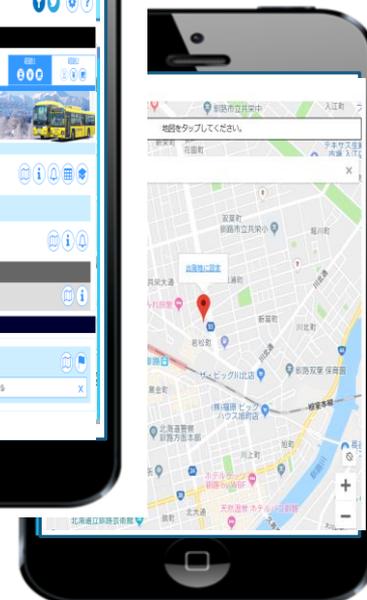
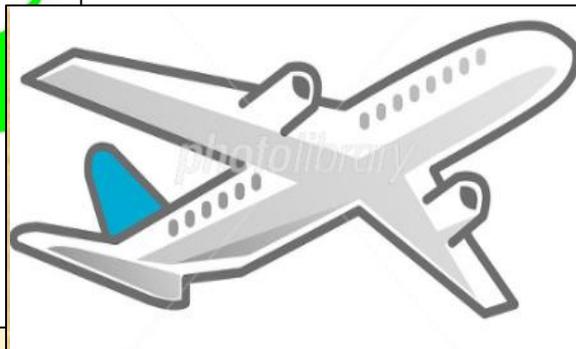
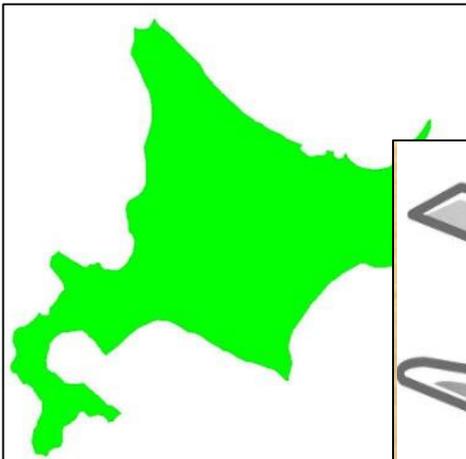
あすの帯広

6～12時 12～18時

歯周病専門医による
歯周病相談
医療法人 わたが 歯科 34-2001
日本歯周病学会認定 歯周病専門医 田和 大海

3. 十勝MaaS・北海道MaaSの実現に向けて (2) JR北海道(交通新聞社)と 競争から協創で連携

< 石勝線特急列車のみで導入 >



3. 十勝MaaS・北海道MaaSの実現に向けて

(3) 十勝MaaSの実現にむけて



同じ地域の
バス事業者とも、
アプリが違っても
乗継案内が可能になる

標準フォーマット オープンデータ化



3. 十勝MaaS・北海道MaaSの実現に向けて

(4) 十勝MaaSの充実のために

十勝が繋がる！
食と農(商業)と繋がる！



交通モードのみならず
十勝らしい「食」「農」や
「商業」と繋がることが
重要！



3. 十勝MaaS・北海道MaaSの実現に向けて

(5) 北海道MaaSの実現によって



**海外に繋がる！
海外から繋がる！**

海外データ
「もくいく」に反映。
「もくいく」データを
海外サービスに反映。

相互データ共有



(1) 第29858号 2019年(平成31年)1月29

十勝バス 海外交通大手と連携協議

シンガポールで新業態具体化目指す

十勝バス(菅広、野村文吾社長)は、シンガポールの大手公共交通運営会社のSMRTグループとの間で、次世代型の移動サービス「MaaS」の導入をクロールバードを加速させるべく、協議を加速する議論を加速する。今後、両社の業態やイノベーションを結んだ。今後、SMRTは、シンガポールの大手公共交通運営会社のSMRTグループとの間で、次世代型の移動サービス「MaaS」の導入をクロールバードを加速させるべく、協議を加速する議論を加速する。今後、両社の業態やイノベーションを結んだ。

元社長らが現地を訪れ、SMRTのゼネラルマネジャーらと三者で結んだ。十勝バスは、事業拡大などを目的に海外展開を模索、シンガポールとは2017年から政府関係者などと懇談を進める中で、SMRT側とコンタクトができてきた。

25日付で、野村社長らとSMRT側との高野

SMRTはシンガポール地下鉄・バス・タクシーなどを運営する位の企業。今年

3. 北海道MaaSの実現に向けて

(6) 全体構想図

課題

- 鉄道網の縮小
- バス利用者減
- インパウンド増加
- 交通の可視化
- 冬期間独特の移動問題
- 人口減少・高齢化

課題解決に向けての準備

- データの共有・オープン
- 観光と公共交通を繋ぐ
- ICTの積極活用
- バス位置情報発信

課題解決

- ビッグデータ解析
- 先進IoT・ICTの活用
- 人工知能の有効活用
- 効率的多言語化
- MaaSの実現

北海道全体の交通可視化
交通の不安解消(旅前・旅中)
公共交通活性化
インパウンドへの情報発信

人口減少・高齢化・公共交通利用者減・観光客増加・高速道路延伸



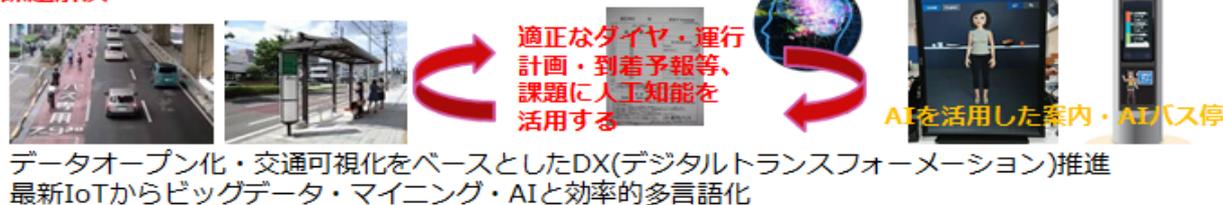
課題解決に向けて・準備

ICTによる交通の可視化



ICTを利用した検索・バスロケサービス・オープンデータ化・観光+公共交通で活性化・データ蓄積

課題解決



インパウンドの北海道に対する交通不安の解消
「見える化」「DX化」によるサービスの向上・地元利用者増
グローバルMaaSの実現

世界各国とも情報共有・オープンデータ化。北海道の交通の不安解消・全交通(航空・電車・バス・TAXI等)連携

標準的なバス情報フォーマット/GTFS 勉強会

ショートスピーチ

～ バスデータの標準化・オープンデータ化、
Google Mapsへの掲載 ～

ご清聴、ありがとうございました

公共交通マーケティング研究会 アドバイザー 野村 文吾
十勝バス株式会社 代表取締役社長